

ション精神医学」「リハビリテーション神経内科学」など医科学系の講義と実習を開講し、自然科学領域の基礎知識と技術を発展させる。また、後期に地域実習を設置し、在宅生活を送る対象者に関わる作業療法実務を学ぶ機会を提供する。さらに、研究プロジェクト演習ⅡまたはTOEIC 特別講義に参加し、早期から大学院進学を意識した研究活動に、あるいは留学を意識した英語力の向上に自主的に取り組むように促す。

- ・ 3年次には、身体障害作業療法、精神障害作業療法、発達障害作業療法、老年期障害作業療法、および日常生活活動評価などの専門領域科目を開講し、作業療法の実施に必要な情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度について指導する。また、後期に評価実習を設定し、身体又は精神障害作業療法における評価技術を学ぶ機会を提供する。さらに、「ニューロリハビリテーション学」「行動変容学」を開設し様々な領域で役立つ科目を設定する。
- ・ 4年次には、長期臨床実習を設定し、3年次までの教育課程で学んだ作業療法の実施に必要な知識、技能、態度を、実習施設において指導を受けながら実践する機会を提供する。また、実習を通して対象者や家族、他職種とのコミュニケーションの重要性についても認識を深め、保健・医療・福祉に関わる作業療法の専門職としての資質と自覚を高める。また、3年次から開始した卒業研究を完成することで、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身に付け、作業療法学の学問としての意義と重要性についても学ぶ。さらに、作業療法海外研修プログラムを選択必修科目として設け、国際的な人材育成に繋げる。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践する。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）から作業療法学プログラムは開始される。学生は、入学時に次に定める高校までの履修科目に習熟していることを想定している。初修物理学、初修生物学の単位を修得すべき者は保健学科において指定する。光り輝き入試（大学院進学型）で選抜された学生は、学士課程卒業に続いて大学院博士課程前期への進学を想定している。広島大学在学の全学の学生に対しては転学部または転学科の規程に基づき別途定める。本プログラムの定員（受け入れ上限数）は30名である。

6. 取得可能な資格

作業療法士国家試験受験資格

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀: 90点以上)	4
A (優: 80~89点)	3
B (良: 70~79点)	2
C (可: 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

○知識・理解

1. 人体の構造と機能に関する知識・理解
2. 病因と病態に関する知識・理解
3. 保健・医療システムに関する知識・理解
4. 作業療法の学問的背景に関する知識・理解
5. 外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解

○能力・技能

1. 作業療法の学問的背景に基づき、作業的存在としての人間を探究する能力・技能
2. 作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能
3. 作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能
4. 他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能
5. 作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能
6. 作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能

○総合的な力

1. 保健医療における倫理的判断に基づいた行動力
2. 医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力
3. 医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度
4. 科学的かつ創造的な問題解決能力

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

○位置づけ（目的）

それまでに学習した作業療法の総ての知識を応用し、臨床（社会）への貢献について考える（作業療法の臨床的意義の吟味）。あわせて科学的根拠に基づいた問題解決能力を習得し、専門職の質の向上を図る態度と技能を養う（専門性の確立）。

○概要

①作業療法の臨床的意義の吟味

自ら設定したテーマについて文献検索活動を通して、作業療法及び臨床における意義を吟味する。

②科学的根拠に基づいた研究活動の体験・習得

自らの研究テーマに沿って、研究計画立案、研究実施、論文作成、口頭発表という一連の研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、態度、技能を習得する。

○配属時期と配属方法

3年次前期に配属先の希望を聴取し、3年次後期に本配属となる。教員が提示する指導学生の受け入れ人数リストに基づき、学生間で指導を希望する教員の人数を調整する。最終的に専攻会議での承認を得て、各学生の配属先を決定する。

10. 責任体制

P D C A 責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

作業療法学専攻会議、保健学科会議とその構成員により実施されている。

教養教育科目履修基準表

医学部保健学科作業療法学専攻

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目等	開設単位数	履修区分	履修年次(注1)													
							1年次		2年次		3年次		4年次							
							前	後	前	後	前	後	前	後						
教養教育科目	平和科目	平和科目	2		2	選択必修			○											
		平和共修科目	1		1	必修	○													
	大学基礎科目	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○													
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○													
		展開ゼミ	(0)		1	自由選択	○	○												
	共通科目	領域科目	領域科目		8	人文社会科学系科目群から2科目4単位以上 自然科学系科目群から2科目4単位以上	1又は2	選択必修	○	○										
			外国語	英語(注2)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎 I	1	必修	○										
		コミュニケーション基礎 II			1		○													
		コミュニケーション I		コミュニケーション I A	2	コミュニケーション I A	1	必修	○											
				コミュニケーション I B	1		○													
		コミュニケーション II	コミュニケーション II A	2	コミュニケーション II A	1	必修		○											
			コミュニケーション II B	1		○														
		初修外国語(注2) (ドイツ語, フランス語, 中国語のうちから1言語選択)	初修外国語 I		(0)	ベーシック外国語 I	1	自由選択	○											
			初修外国語 II			ベーシック外国語 II	1		○											
			初修外国語 III			ベーシック外国語 III	1			○										
	初修外国語 IV		ベーシック外国語 IV	1			○													
	情報・データサイエンス科目	情報・データサイエンス科目		6	情報・データ科学入門	2	必修	○												
		ゼロからはじめるプログラミング			2			○												
データサイエンス基礎		2			○															
健康スポーツ科目	健康スポーツ科目		2	健康スポーツ科学	2	必修	○													
社会連携科目	社会連携科目		(0)		1又は2	自由選択	○	○												
基盤科目	医療従事者のための心理学(注3)		2	医療従事者のための心理学(注3)	2	必修		○												
	初修物理学	初修物理学		2	初修物理学	2	選択必修(注4)	○												
		初修生物学		2	初修生物学	2		○												
計	必修・選択必修科目小計		33																	
	自由選択科目小計		6	(注5)																
	教養教育科目合計		39																	

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ」、「オンライン英語演習Ⅱ」、「オンライン英語演習Ⅲ」：各1単位(同一科目を重複して単位を修得することは不可)の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(6単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧の教養教育の外国語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ、「心理学概論A」又は「心理学概論B」の履修により修得した単位を、「医療従事者のための心理学」の単位の修得として卒業に必要な単位(2単位)に算入することが可能である。

注4：「初修物理学」、「初修生物学」については、保健学科において指定された科目を履修すること。2科目とも指定された場合はすべて履修すること。但し、選択必修科目の卒業要件単位として算入されるのは1科目とする。

注5：自由選択科目は、展開ゼミ、要修得単位数を超えて修得した領域科目、初修外国語、情報・データサイエンス科目、社会連携科目、履修基準表に記載されているもの以外の基盤科目の中から合計6単位以上を修得すること。「初修物理学」「初修生物学」のいずれの科目も、自由選択科目の単位として算入されないので注意すること。

作業療法学専攻プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 人体の構造と機能に関する知識・理解	該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明および考察ができる。	該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明および考察ができる。	該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、基本的な説明ができる。
	(2) 病因と病態に関する知識・理解			
	(3) 保健・医療システムに関する知識・理解			
	(4) 作業療法の学問的背景に関する知識・理解			
	(5) 外国語によるコミュニケーションに関する知識・理解			
能力・技能	(1) 作業療法の学問的背景に基づき、作業的存在としての人間を探索する能力・技能	講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明および考察ができる。	講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明および考察ができる。	講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、基本的な説明ができる。
	(2) 作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能			
	(3) 作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能			
	(4) 他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能			
	(5) 作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能			
	(6) 作業療法プログラムを立案および実践する能力・技能			
総合的な力	(1) 保健医療における倫理的判断に基づいた行動力	臨床実践の場において保健医療の倫理に基づく適切な判断および行動ができる。	保健医療の倫理に基づいた適切な判断ができる。	保健医療の倫理的判断について理解できる。
	(2) 医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む積極的な態度が見られる。	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む積極的な態度が日常的に見られる。	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む場面が見られる。	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心と作業療法に取り組む姿勢・意欲が見られる。
	(3) 医療チームの一員として他者・多職種と連携し協働する能力と態度	医療チームの一員として、他職種と協調的な関係を構築し、積極的にコミュニケーションを取ることができる。また、チームのルールやマナーを守りながら行動できる。	医療チームの一員として、他職種と協調的な関係を構築できる。また、チームのルールやマナーを守りながら行動できる。	医療チームの一員として、他職種と協調的な態度で接することができる。
	(4) 科学的かつ創造的な問題解決能力	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察できる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。 7. 得られた結果から新たな仮説を立てられる。	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察できる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案できる。 4. 立案した計画を遂行できる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的な考察ができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムは、医学・保健・医療・福祉等の分野において作業療法士として貢献するための専門的知識や技術はもとより、作業療法学の発展に寄与するための幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断能力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けるしなやかで創造的な人材を育成するため、1年次は他学部の学生と共に教養教育科目を学ぶ。

作業療法プログラムカリキュラムマップ

学習の成果	1年				2年				3年				4年				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
評価項目	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	
人体の構造と機能に関する知識・理解	初移物理学(O)		医療従事者のための心理学(◎)		基礎運動学(◎)	基礎運動学(◎)										生理学的心理学(△)	
	初移生物学(O)		解剖学II(◎)	解剖学II(◎)													
	解剖学(◎)	解剖学(◎)	生理学II(◎)	生理学II(◎)													
	生理学(◎)	生理学(◎)	発達障害学(◎)	発達障害学(◎)													
病因と病態に関する知識・理解	リハビリテーション科学入門(◎)		医療従事者のための心理学(◎)		病理学(◎)	病理学(◎)			内部障害リハビリテーション学(◎)	内部障害リハビリテーション学(◎)							
					リハビリテーション内科学I(◎)	リハビリテーション内科学I(◎)	リハビリテーション内科学II(◎)	リハビリテーション内科学II(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)							
					リハビリテーション整形外科学(◎)	リハビリテーション整形外科学(◎)	リハビリテーション整形外科学(◎)	リハビリテーション整形外科学(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)							
					リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション神経内科学(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)							
					臨床薬理学(◎)	臨床薬理学(◎)	リハビリテーション精神医学総論(◎)	リハビリテーション精神医学総論(◎)									
					求養学(◎)	求養学(◎)											
保健・医療システムに関する知識・理解									Global Health and Current Public Health Issues(△)	Global Health and Current Public Health Issues(△)							
									地域実習(◎)				保健政策論(O)				
									Introduction to Epidemiology and Population Sciences(△)	Introduction to Epidemiology and Population Sciences(△)							
									救命救急法及びリスク管理(◎)	救命救急法及びリスク管理(◎)							
作業療法の学問的背景に関する知識・理解	初移物理学(O)		リハビリテーション概論(◎)	リハビリテーション概論(◎)									国際作業療法学(O)	国際作業療法学(O)			
	初移生物学(O)			基礎作業学(◎)													
外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解	作業療法学概論(◎)																
	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	保健英語(△)	保健英語(△)	Introduction to Epidemiology and Population Sciences(△)	Introduction to Epidemiology and Population Sciences(△)	Global Health and Current Public Health Issues(△)	Global Health and Current Public Health Issues(△)							
	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	コミュニケーションIIA(◎)													
	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	コミュニケーションIIB(◎)													
	ベシック外国語I(△)	ベシック外国語I(△)	ベシック外国語II(△)	ベシック外国語II(△)													
平和共修科目(◎)	平和共修科目(◎)	平和共修科目(◎)															
作業療法の学問的背景に基づき、作業療法に在る人間を探索する能力・技能					解剖学実習I(◎)	解剖学実習I(◎)	解剖学実習II(◎)	解剖学実習II(◎)									
					生理学実習(◎)	生理学実習(◎)	運動学実習(◎)	運動学実習(◎)									
作業遂行上の問題解決に向けて知識を統合する能力・技能					基礎作業学(◎)	作業技術学実習I(◎)	作業技術学実習I(◎)	作業技術学実習II(◎)	作業技術学実習II(◎)	保健統計学(◎)	保健統計学(◎)	地域作業療法学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)				
作業遂行の課題を模索し、対応する能力・技能									発達障害作業療法評価学演習(◎)	発達障害作業療法評価学演習(◎)	日常生活活動評価学演習(◎)	日常生活活動評価学演習(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	
									身体障害作業療法評価学実習I(◎)	身体障害作業療法評価学実習I(◎)	身体障害作業療法評価学実習II(◎)	身体障害作業療法評価学実習II(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	
									精神障害作業療法学(◎)	精神障害作業療法学(◎)	内部障害作業療法学(◎)	内部障害作業療法学(◎)	地域作業療法学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)	
									老年期障害作業療法評価学(◎)	老年期障害作業療法評価学(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	生活行為向上マネジメント学演習(◎)	生活行為向上マネジメント学演習(◎)	生活行為向上マネジメント学演習(◎)	生活行為向上マネジメント学演習(◎)	
											義肢装具学(◎)	義肢装具学(◎)	地域連携活動演習(◎)	地域連携活動演習(◎)	地域連携活動演習(◎)	地域連携活動演習(◎)	
											発達障害作業療法学演習(◎)	発達障害作業療法学演習(◎)	職業リハビリテーション学演習(◎)	職業リハビリテーション学演習(◎)	職業リハビリテーション学演習(◎)	職業リハビリテーション学演習(◎)	
											高次脳機能障害作業療法学演習I(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習I(◎)	ニューロリハビリテーション学(◎)	ニューロリハビリテーション学(◎)	行動変容学(◎)	行動変容学(◎)	
他者・多職種とのコミュニケーション能力・技能	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)													
	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	コミュニケーションIIA(◎)													
	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	コミュニケーションIIB(◎)													
	ベシック外国語I(△)	ベシック外国語I(△)	ベシック外国語II(△)	ベシック外国語II(△)													
作業療法の実践に必要な技術を吸収・統合する能力・技能					基礎作業学(◎)				身体障害作業療法評価学実習I(◎)	身体障害作業療法評価学実習I(◎)	身体障害作業療法学演習I(運動器)(◎)	身体障害作業療法学演習I(運動器)(◎)	身体障害作業療法学演習II(脳血管)(◎)	身体障害作業療法学演習II(脳血管)(◎)	総合臨床実習I(◎)		
									日常生活活動評価学演習(◎)	日常生活活動評価学演習(◎)	身体障害作業療法学演習II(運動器)(◎)	身体障害作業療法学演習II(運動器)(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習I(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習I(◎)	総合臨床実習II(◎)		
									精神障害作業療法学(◎)	精神障害作業療法学(◎)	内部障害作業療法学(◎)	内部障害作業療法学(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)			
									精神障害作業療法評価学演習(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)			
									発達障害作業療法学演習(◎)	発達障害作業療法学演習(◎)	精神障害作業療法学演習(◎)	精神障害作業療法学演習(◎)	生活行為向上マネジメント学演習(◎)	生活行為向上マネジメント学演習(◎)			
											義肢装具学(◎)	義肢装具学(◎)	地域連携活動演習(◎)	地域連携活動演習(◎)			
											発達障害作業療法学演習(◎)	発達障害作業療法学演習(◎)	職業リハビリテーション学演習(◎)	職業リハビリテーション学演習(◎)			
											高次脳機能障害作業療法学演習I(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習I(◎)	ニューロリハビリテーション学(◎)	ニューロリハビリテーション学(◎)	行動変容学(◎)	行動変容学(◎)	
作業療法プログラムを立案するための実践する能力・技能									身体障害作業療法評価学実習II(◎)	身体障害作業療法評価学実習II(◎)	身体障害作業療法学演習II(脳血管)(◎)	身体障害作業療法学演習II(脳血管)(◎)	身体障害作業療法学演習III(脳血管)(◎)	身体障害作業療法学演習III(脳血管)(◎)	総合臨床実習I(◎)		
									日常生活活動評価学演習(◎)	日常生活活動評価学演習(◎)	身体障害作業療法学演習III(運動器)(◎)	身体障害作業療法学演習III(運動器)(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習II(◎)	高次脳機能障害作業療法学演習II(◎)	総合臨床実習II(◎)		
									精神障害作業療法学(◎)	精神障害作業療法学(◎)	内部障害作業療法学(◎)	内部障害作業療法学(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)			
									精神障害作業療法評価学演習(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	精神障害作業療法評価学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)	地域作業療法学演習(◎)			

学習の成果	1年				2年				3年				4年			
	前期	第2ターム	第3ターム	後期	前期	第2ターム	第3ターム	後期	前期	第2ターム	第3ターム	後期	前期	第2ターム	第3ターム	後期
評価項目	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
保健医療における倫理的判断に基づいた行動力	教養ゼミ(◎)				平和科目(○)	地域実習(◎)			評価実習I(◎)	作業療法管理学(◎)			総合臨床実習I(◎)	多職種間連携教育(◎)	卒業研究(○)	卒業研究(○)
	大学教育入門(◎)		研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)	評価実習II(◎)	作業療法管理学(◎)		総合臨床実習II(◎)	作業療法海外研修プログラム(○)	作業療法海外研修プログラム(○)
医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に繋がる実践力	教養ゼミ(◎)		研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	地域実習(◎)		作業療法学研究法I(◎)	作業療法学研究法I(◎)	研究プロジェクト演習Ⅴ(△)	研究プロジェクト演習Ⅴ(△)	総合臨床実習I(◎)	多職種間連携教育(◎)	卒業研究(○)	卒業研究(○)
	大学教育入門(◎)						研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)	作業療法科学(○)	作業療法科学(○)	総合臨床実習II(◎)	作業療法海外研修プログラム(○)	作業療法海外研修プログラム(○)	
総合的な											評価実習I(◎)					
											評価実習II(◎)					
医療チームの一員として患者・多職種と連携し協働する能力と態度	教養ゼミ(◎)						地域実習(◎)				研究プロジェクト演習Ⅴ(△)	研究プロジェクト演習Ⅴ(△)				
	大学教育入門(◎)	平和共修科目(◎)	平和共修科目(◎)								評価実習(◎)		総合臨床実習(◎)	多職種間連携教育(◎)		
科学的かつ創造的な問題解決能力	大学教育入門(◎)										評価実習II(◎)			総合臨床実習II(◎)	作業療法海外研修プログラム(○)	作業療法海外研修プログラム(○)
	教養ゼミ(◎)		研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅰ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	研究プロジェクト演習Ⅱ(△)	地域実習(◎)		作業療法学研究法I(◎)	作業療法学研究法I(◎)	作業療法学研究法II(◎)	作業療法学研究法II(◎)	総合臨床実習(◎)	多職種間連携教育(◎)	卒業研究(○)	卒業研究(○)
	大学教育入門(◎)		データサイエンス基礎(◎)	データサイエンス基礎(◎)	平和科目(○)	研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅲ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)	研究プロジェクト演習Ⅳ(△)	研究プロジェクト演習Ⅴ(△)	研究プロジェクト演習Ⅴ(△)	研究プロジェクト演習Ⅵ(△)	総合臨床実習II(◎)	作業療法海外研修プログラム(○)	作業療法海外研修プログラム(○)	
	情報・データ科学入門(◎)		ゼロから始めるプログラミング(◎)	ゼロから始めるプログラミング(◎)						評価実習I(◎)						
	社会連携科目(△)	社会連携科目(△)	社会連携科目(△)	社会連携科目(△)						評価実習II(◎)						
	健康スポーツ科目(◎)	健康スポーツ科目(◎)	健康スポーツ科目(◎)	健康スポーツ科目(◎)												

(◎) 必修科目 (○) 選択必修科目 (△) 選択科目

作業療法学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	研究室
桐本 光	教授	感覚運動神経科学
岡村 仁	教授	精神機能制御科学
花岡 秀明	教授	老年・地域作業機能制御科学
宮崎 充功	教授	生理機能情報科学
石井 大典	教授	認知行動神経科学
金子 史子	講師	精神機能制御科学
齊田 和哉	講師	精神機能制御科学
伊達 翔太	講師	上肢機能解析制御科学
和田 峰子	助教	老年・地域作業機能制御科学